

DV家庭子に影響

自分否定し依存症に

県更生保護会が防止へ講座

県更生保護会は19日、DV(ドメスティック・バイオレンス)防止を考える講座を開き、DV家庭に育ち、現在は薬物依存からの回復を目指している森影虎さん(46)＝仮名＝が体験を語った。森さんは幼いころの心の傷が生きづらさにつながったと振り返り、DVが子どもに及ぼす影響について触れた。また「人は必ず変わる」と、更生に向けての努力についても話した。

回復者へ 「人は必ず変わる」

県外出身の森さんは、父親が精神的暴力によって家族に恐怖を与え支配する環境で育った。

父親は酒を飲んで大声で母親に詰め寄った。酔って帰った父が大きな音を立てて玄関の門を開けると、母は子どもが寝ている二階の部屋に逃げ込んだ。父の足音が近づくと母がおびえ身を縮こまらせるのが心底怖かった。やがて母親が殴られたあとを化粧で隠す姿を目撃するが、「お父さんがあんなことは外には言わない」と口止めされた。

森さんが父親に逆らうと、父親は母親に当たった。「自分が母の言うことを聞いていないから悪い」

「母の前でいい子にしないとまた父が酒を飲んで詰め寄る」と、自分を責めるようになったという。場の空気が凍り付くのが怖くて、必要以上にその場を盛り上げようとした。親の関心を引きたいと、道化役、優等生役、さまざまな役割を演じた。自分の怒りや悲しみ、恨みなど感情は押し込めた。「自分を低くみて、苦しい生き方を続けていた」

森さんは中学二年のころ、父親の手を出した。...

始まり、やがて覚せい剤も使うように。現在、民間の薬物依存症リハビリ施設「沖縄タルクリハビリテーションセンター」で回復を目指す。

薬物のためこんな感情を一瞬で変え、気分を変えようとした。親からどう見られるかばかり考えるうち、主体性を失っていき「何かに依存していないと自分でいられなかった」という。「妻にも依存し、面倒を見てくれないと怒り狂った。妻が去ると、別の依存を探し始め、お酒や薬が始まった」

ダルクにつながり「寂しさから自分の本質と違う自分を演じ、自己否定を繰り返した。幼いころの感情が尾を引き、依存という悪いスパイラルに入った」と気付く。

薬を使わない自分も好きになることも分かってきた。妻と三人の子ともとは別れたが、更生へ努力する今の姿を「お父さんの生き方かっこいいね」と言われたという。いつか再会したいが、そのためにはなく自分のために努力を続けていく。

県更生保護会嘱託研究員の名霧知恵理さんは「家庭に尊重や愛情がないと、子どもは心を引き裂かれ、人を傷つけられず、他人と健康...

な人間関係を築けなく、一定、支配せずに、乗り越える力を貸してくれる人、経験や伝えあえる仲間など、いい出会いがあるかないかだ」と強調した。



自らが育った環境の影響について語る森影虎さん＝県総合福祉センター

沖縄 OKINAWA TIMES タイムス

朝刊 2009年(平成21年) 2月25日 水曜日

発行所 那覇市おもろまち1丁目3番31号 (郵便番号900-8678) 沖縄タイムス社 私書箱 那覇中央郵便局293号 ©沖縄タイムス社 2009年